

地域研究シリーズ

7

南アジア  
経済

佐藤宏 編

アジア経済研究所

地域研究シリーズ

7

南アジア  
経済

佐藤宏 編

アジア経済研究所

## 「地域研究シリーズ」の刊行にあたって

アジア経済研究所は日本における発展途上諸国研究の主要な機関の一つであるが、1990年に特殊法人としての創立30周年を迎え、いくつかの記念行事を行っている。この「地域研究シリーズ」の刊行もその一つである。

「地域研究」とは何を意味するかについてここで立ち入ることはできないが、それがこれまでアジア経済研究所の主要な柱の一つであったことは間違いない。創立30周年を機に、われわれは、これまでの研究の成果を振り返ることによって、地域研究とは何か、それはどのようにしてなされるのか、これまでそれによって発展途上諸国の何を明らかにしてきたか、何に役立つのか、そして、今後の課題は何かを示そうとした。その結果がこのシリーズの刊行である。

シリーズは14巻から構成され、平成3年から4年にかけて刊行される予定である。また英文による別巻の刊行も予定されている。

その第1巻は『地域研究論』と題されている。これは、地域研究の目的と方法、地域研究と社会科学、地域研究の当面の課題をあつかった書き下ろしの書物で、シリーズ全体の序論をなしている。

第2巻から第14巻までの各巻は別掲のように地域別に構成され、いずれも第I部の総論と第II部の収録論文の二つの部分からなっている。第I部の総論は、それぞれの編者が、その巻の主題の範囲でアジア経済研究所におけるこれまでの地域研究の主要な流れと成果、日本の研究状況におけるその位置づけ、今後の課題などを論じた書き下ろしの論文である。

これに対し、第II部は、その巻の主題についてこれまでアジア経済研究所でなされた地域研究の成果の中から平均およそ11~12本の論文の全文あるいは抜粋部分を原著者のご承諾を得た上で収録し、同研究所におけるこれまで

の主要な成果の概観が得られるように配列したものである。したがって第I部と第II部とはそれぞれ独自の価値を有し、併せて読まれるべきものと考えている。

第II部への収録論文の選定はアジア経済研究所の公式の判断によるものではなく、あくまでもそれぞれの巻の編者の責任でなされたものである。多くの業績の中から何を取るかはそれぞれの編者にとって最も苦心の存するところであった。第I部の叙述と第II部への収録の仕方の中に地域研究についての各編者の考えがうかがえるといつてよいのである。

収録にあたっては、編集上の統一を図り、明らかな誤植を訂正したほかは、もとの論文になんらの変更も加えていない。また、抜粋にあたっては、それがもとの論文のどの部分に当るかが分かるように工夫した。収録をご承諾いただいた原著者のかたがたに厚くお礼申し上げたい。

このシリーズは、日本における発展途上諸国についての研究のかなり大きな部分を示したものとして、各方面のかたがたに関心をもつていただけるものと信じている。

なお、英文の別巻は、第1巻および第2巻から第14巻までの第I部をもとにして、アジア経済研究所における地域研究の成果が英語の読者に理解されるように構成する予定である。

シリーズ作成の母体となったのは地域研究部におかれた「地域研究の課題と展望」研究会で、その委員は各巻の編者および清水元の諸氏である。しかし、この研究会では、それぞれの分担はあっても、シリーズを共同の所産とするために地域研究の考え方や論文収録の基準などについて繰り返し熱心な討議を行ったが、その際にはいつも研究所内から委員以外の多くの人々も参加した。また、このシリーズが30周年記念事業の一つであるということから、研究所内の各部門がさまざまな形の援助を惜しまれなかった。ここでは特に加藤孝之、服部民夫、岩佐佳英、橋本眞治、重城忠純の各氏のお名前を記したい。さらに、アジア経済出版会社長の田中生男氏はこのシリーズに深く関心を示され、実際にシリーズ刊行の仕事を担当された同出版会のかたがたか

らは編集上いくつもの有益な提案をいただいた。30年間の地域研究の検討と整理という面倒な仕事をともかくも軌道に乗せることができたのはこれらすべてのかたがたのおかげである。ここに心から感謝の意を表したい。

平成3年3月

「地域研究の課題と展望」研究会主査 山口博一

## 【凡 例】

1. 第 I 部の総論は編者による書き下しの論文である。その中の引用文献はおおむね著者名〔番号〕の形式で示し、文献名は総論末に「引用文献」として著者名の五十音順に掲載した。
2. 第 II 部で既発表の論文を収録するにあたっては、それぞれの論文の第 1 ページ上部に、書名(または雑誌名、巻号)、発行所名、発行年などを掲載し、省略部分をも含めた全体の目次を掲げた。
3. 原論文は加筆修正を行わずに、発表時のままの形で収録した。ただし、編集上の統一のために以下の点に留意した。
  - ① 原論文が縦組の場合は横組に変更し、同時に漢数字をアラビア数字に改めるなど、横組用の体裁にととのえた。
  - ② 章、節などの番号は I, II, III あるいは 1, 2, 3 などの形式に統一した。
  - ③ 原論文の省略については、「【前略】……」「……【中略】……」「……【後略】」などとし、部分的な省略は「【略】」として示した。
  - ④ 図表の表示は原論文に付された番号を原則としてそのまま掲載した。原文の省略に伴い図表の番号が飛ぶことがある。
  - ⑤ 原論文中の図表を収録しない場合には、【略】として示した。
  - ⑥ 注の番号は変更せずに示した。原文の省略に伴い注の番号も飛ぶことがある。注記の方式は文中右肩に統一した。節ごとに注が付されている場合には、まとめて論文末に掲げた。脚注の場合には通し番号を付して論文末に掲げた。省略によって注の内容が不明確になる場合には、引用文献名等を補った。
  - ⑦ 原論文の明らかな誤植は訂正した。また、部分的に編者による説明が必要な場合には、【……—編者】として文中で補った。

## 目 次

### 第 I 部 総 論

はじめに 5

第 1 章 日本の南アジア経済研究——戦前から戦後へ—— 9

第 2 章 アジア経済研究所の南アジア経済研究 15

I 南アジアにおける開発理論 17

II 資本主義的工業化の特質 23

III 土地改革と農業発展 30

IV 南アジア経済の発展と格差 37

V 結び——南アジア経済研究と地域研究 39

引用文献 41

### 第 II 部 南アジア経済論

第 1 章 南アジアにおける開発理論

1 マハラノビス模型の前と後 石川滋 51

——インド経済管見——

2 インド「工業停滞論争」に関する若干の考察 絵所秀紀 72

## 第2章 資本主義的工業化の特質

- 3 経営代理制度の本質と起源 小池賢治 85
- 4 インドのある大企業の株主構成 伊藤正二 106  
—財閥支配のメカニズムの一検討—
- 5 パキスタン工業の展開過程 山中一郎 120
- 6 インド国営鉄鋼業の発展とその特質 石上悦朗 134

## 第3章 土地改革と農業発展

- 7 インド、ウッタル・プラデシ州のザミンダール制  
廃止法の立法過程 多田博一 149
- 8 インド農業の新しい局面 古賀正則 179  
—いわゆる「緑の革命」をめぐる—
- 9 技術・制度改革と農村経済の変容 平島成望 193  
—パキスタン・パンジャープ4村の事例研究—
- (付) パキスタン・パンジャープ農村における非農家層の  
経済分析 平島成望 213
- 10 スリランカの貯水池灌漑と農村社会 中村尚司 218

## 第4章 南アジアの発展と格差

- 11 インドはどこへゆくか 山口博一 231

南アジア  
経済

佐藤 宏 (アジア経済研究所地域研究部主任調査研究員)

主要著作

- 『インド・マレーシアの社会変動と国家官僚制』(共著)  
アジア経済研究所 1986年
- 『インドにおける産業統制と産業許可制度』(共著)アジア  
経済研究所 1986年
- 『南アジア現代史と国民統合』(編著)アジア経済研究所  
1988年
- 『バングラデシュ 低開発の政治構造』(編著)アジア経  
済研究所 1990年

南アジア 経済

地域研究シリーズ7

1991年3月30日発行©

定価2987円(本体2900円)

編者 佐藤 宏

発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)4231(代)

発売所 アジア経済出版会

東京都新宿区市谷本村町42 電話 東京(3353)1640  
振替 東京5-143692

印刷所 勝美印刷株式会社

ISBN4-258-22007-8 C3333